

平成15年度資源評価票（ダイジェスト版）

標準和名 ハタハタ

学名 *Arctoscopus japonicus*

系群名 日本海西部系群

担当水研 日本海区水産研究所



生物学的特徴

- 寿命： 5歳
成熟開始年齢： 1歳
産卵期・産卵場： 12月のごく短い一時期、沿岸の藻場、西区にはまとまった産卵場がない
索餌期・索餌場： 未成魚期以降の分布・回遊に関する知見は少ない
食性： 端脚類、オキアミ類、魚類
捕食者： 大型魚類によって捕食されるが、実態は不明

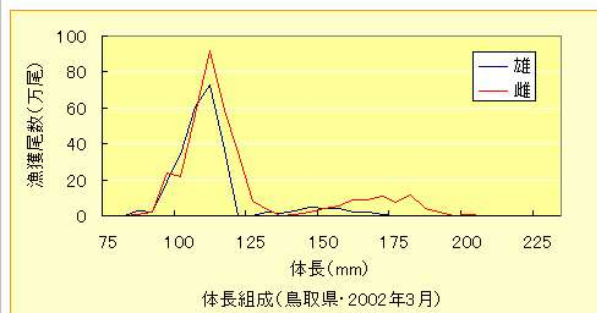
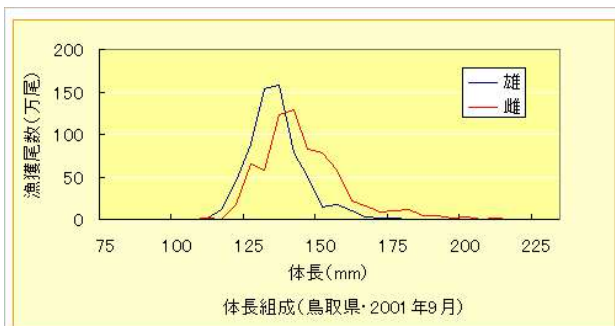
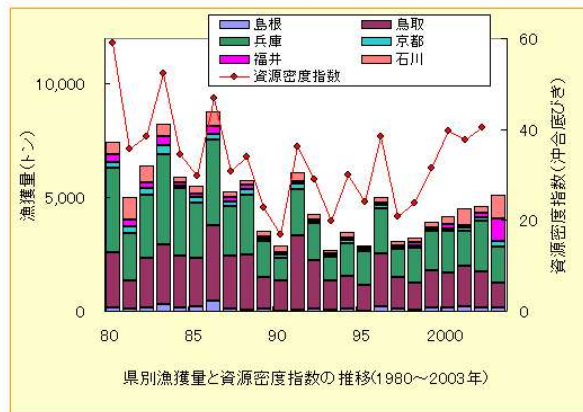


漁業の特徴

兵庫県以西では沖合底びき網、京都府以北では小型底びき網によって主に漁獲され、例年兵庫・鳥取両県の水揚げが多い。漁獲の中心は禁漁期前の4～5月、禁漁明けの9月で、11～12月に少ない。

漁獲の動向

当海域におけるハタハタの漁獲は、過去50年ほど5,000トン前後の水準を維持してきた。1970年代後半は韓国及び日本海北部において漁獲量が激減したが、この海域ではハタハタの市場経済的な重要性が高まったものの漁獲が大きく減少することはなかった。1990年代中頃から漁獲量は漸増傾向に転じている。2002年12月～2003年春季に、ほぼ全域で漁獲量が非常に多くなった。

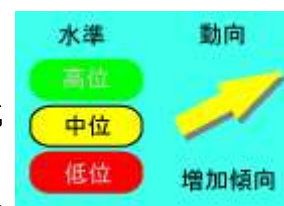


資源評価法

漁獲量の推移とともに、沖合底びき網漁業漁獲成績報告書に基づく漁場別漁獲統計を解析し1980年以降の資源密度指数*の推移を調べた。加えて、鳥取、兵庫及び福井県における漁獲物の体長組成から、近年の加入状況、漁獲物の年齢構成を考察した。*資源密度指数：10分マス目で設定された漁区ごとの月別CPUE（漁獲重量(kg)／ひき網回数）を一定期間（年または月）、ある海域内（中海区または小海区）で集計した値を有漁漁区数で除して求めた。

資源状態

日本海西部のハタハタ資源は、漁獲量及び資源密度指数の動向を見ると、1～3年程度の短い周期で変動を示すものの、90年代初頭に比べやや高めの水準にあると考えられる。各県の調査によれば、近年、冬～春季に1歳魚が高い割合で現れ、加入が順調であることがうかがえる。これらのことから、資源水準は中位で、その動向は増加と判断される。



管理方策

過去10年間の漁獲動向から、本資源は長期的に安定した状態にあると思われ、近年の漁獲努力を継続する限りにおいては資源状態が急激に悪化するとは考えにくい。従って、最近5年間の平均漁獲量を指標としてABClimitを算定した。平均漁獲量からの増加の割合には、1990年からの資源密度指数の分布に指数曲線をあてはめ、2004年時の予想指標値を参考に1.14を当てた。ただし、西区のハタハタが由来するとされる朝鮮半島側の再生産状況が、近年著しく悪化しているとの指摘もあり、今後の漁獲動向や加入状況等を注意深く見守る必要がある。

2004年ABC

管理基準

F 値

漁獲割合

A B C limit	46百トン	1.14Cave5-yr	-	-
A B C target	37百トン	0.8ABClimit	-	-

資源評価のまとめ

- 漁獲量と沖合底びき網（1 そうびき）による資源量指数は、過去10年間、おおむね安定した状態にある
- 過去5年間については、漁獲量も資源密度指数も増加傾向
- 近年、冬～春季に1歳魚が高い割合で現れ、加入が順調と思われる

資源管理方策のまとめ

- 漁獲圧を高めることなく、資源状態を維持する
- 1990年代後半からの資源の漸増傾向をもとに2004年の資源量指数の増加を予測し、これを過去5年間の平均漁獲量にあてはめてABClimitを算定

資源評価は毎年更新されます。